

聖書箇所 創世記5章21節～24節

21：エノクは65年生きて、メトシェラを生んだ。

22：エノクはメトシェラを生んで後、三百年、神とともに歩んだ。そして、息子、娘たちを生んだ。

23：エノクの一生は365年であった。

24：エノクは神とともに歩んだ。神が彼を取られたので、彼はいなくなった。

メッセージ骨子：

<序論> 今やロンドンオリンピックの真最中。メダル総数第**3**位とニッポン大活躍ですが、それを盛り上げているもうひとつの要素が、ツイッターだといわれています。ところで全世界のツイッターのつぶやきが、2年前から永久保存されるようになったのはご存知でしょうか。ある人物がどのような人生を歩んだか、何に関心を持ち、こだわって生きたかは、今後ツイッターの記録を検索することで、だれでもレビューできる時代となりました。

すべての人生にはテーマがあります。その内容は百者百様ですが、「エノクは**300**年神とともに歩んだ」(5；22)とありますので、彼の場合は神とともに歩むことがテーマだったはずですが。その徹底した人生を歩むためのコツは、何だったのでしょうか？

<ポイント1> 『神とともに歩むために必要なものは、へりくだった、謙遜な心』

「人よ。何が良いことなのか。主はあなたに何を求めておられるのか。それはただ公義を行い、誠実を愛し、へりくだって、あなたの神とともに歩むことではないか。」(ミカ6：8)

「わたし(神)は、高く聖なるところに住み、心砕かれて、へりくだった人とともに住む。」(イザヤ57：15) 神の本質は愛とへりくだりです。神が人間の姿をとり、また罪なきお方が罪びととして十字架にかかれた、ここに謙遜のきわみがあります。神が真に求めておられるものは、ささげものではなく、公義と誠実とへりくだりなのです。

<ポイント2> 『神とともに歩むために必要なものは、信仰』

エノクは最後、神が取られていなくなったとありますが(5：24)そこから、神とともにこの世で歩み続けたものは、死という断絶を通らず、そのまま場所だけを移されるということがわかります。信仰をもって主とともに歩むとき、われわれは死に煩わされることなく、時至って主のチャーター便で命の源に連れ戻されるのです。

<ポイント3> 『神とともに歩むために必要なものは、希望』

「正しく恐れ、正しく備える」というのが、われわれの「地震」に対する、あるべき心の態度だと昨今いわれています。最後の裁きは、地震以上に確実ですが、この裁きに対する備えは、神を信じ悔い改めることです。裁きなんて無いほうがいい？そんなことはありません。政界や経済界、身近な人間社会において、赦しがたい巨悪は存在しますが、それが正しく裁かれることは私たちの希望だからです。その裁きの視線がこっち向いたとき、「こわい」と感じるのは誰もが同じですが、罪悔い改めて、キリストの血潮によって罪を洗い流された者にとっては、最後の審判は希望オンリーになります。

「私の言葉を聞いて、わたしを遣わした方を信じるものは、永遠のいのちを持ち、裁きに会うことが無く、死からいのちに移っているのです。」(ヨハネ5：24)

まさに備えあれば憂いなしです。

<まとめ> 私たちの心の井戸にはいろんなものが詰まっています。石や、砂利や、泥や、砂などなど。それはこれまでの人生で、人を傷つけ、人に傷つけられた結果ですが、それをひとつずつ取り除き、癒され、赦され、回復したとき、本当の自分の地下水脈に到達し、泉が湧き出る。これが人生のテーマです。この人生のテーマに生きるとき、私たちは死の間際、自分に与えられたテーマに感謝し、人生そのものに感謝し、与えられた恵みにこころから感謝して、そのまま天に移され、そのあともそのテーマに生きていくことができます。

オリンピックは出ることに意義がありますが、勝つことに最大の喜びがあります。エノクのように天に移され、そこで頂く「よくやった、良い忠実なしもべだ。」(1 コリント9：24)という神の賞賛こそが、われわれの最大榮譽、金メダルなのではないでしょうか？

エノクは神とともに歩んだ、これが彼のテーマでした。あなたのテーマは何ですか？

以上